

# 審議会等の会議結果報告書

課所名	生涯学習課 生涯学習係
-----	-------------

会議名	令和4年度第2回諏訪市社会教育委員会議
-----	---------------------

開催日時	令和4年8月29日(月)午後7時から午後8時45分まで
------	-----------------------------

出席者	(敬称略)
	(出席者) 委員:小池玲子(議長)、河西秀樹(副議長)、飯島千種、小口秀孝、田村方子、中澤和夫、後田高幸、宮坂則子 教育委員会:三輪教育長、細野教育次長、宮阪生涯学習課長、柿崎スポーツ課長 事務局:生涯学習係 関沢係長、笠原主査、丸山主任 (欠席者) 太田直行、平林富美子 (傍聴者) なし

資料	会議資料(令和4年度社会教育委員活動状況(8月現在)、令和4年度社会教育関係事業予定表(9月以降)、第二次諏訪市教育振興基本計画策定スケジュール(予定)、(第1次)諏訪市教育振興基本計画の検証(生涯学習課、スポーツ課))
----	--

## 協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 報 告  
令和4年度社会教育委員活動状況の報告
4. 議 事  
諏訪市教育振興基本計画の検証について

### 【委員からの意見・質疑応答】

- 委員) 教育振興基本計画の検証について、様々な取組を行ったことは分かるが、達成率として例えば5段階評価するとか、目標として掲げたことができたかできなかったかが見えづらいように感じた。取組についても行政だけでなく、地域など学社連携が必要だと思う。今後、二次計画に組み込んでいただけたらと思う。
- 事務局) 今後、検証する方法として、具体的な実績値の記載や目標に対する達成の状況について記載し、分かりやすくなるようにしていく。
- 委員) コミュニティスクールのコーディネーターとも協力体制を取ってもらえたらうまくつながっていくのではないかな。
- 委員) 関連して諏訪中学校のコミュニティスクールのメンバーに公民館の方はいないので、そういった場に入っていいただければマネジメントできるのではないかと感じた。
- 委員) 郷土諏訪への関心や、地域の一員としての意識の醸成について、ふるさと学習の原点は自分の暮らす地域だと思う。その手助けを地域の文化や歴史等も知る地域住民が担うことが望ましいと考える。公民館等で、大人が自分の暮らす地域・ふるさとを学びなおして、学校などからの要請に答えられる人材育成が進めば地域や学校にとって良いと考える。
- 委員) 全般としての意見で、コロナ禍のためできなかったという文言が多く見受けられるため、あまりコロナをそれぞれの項目で出さないほうがよいと感じるので表現を統一してもらえたらと思う。
- 委員) 森林体験学習館について、色々施設のPR等をしていただいているかと思うが、認知度が低いように感じる。LINEやFacebookなどのSNSを活用し、お子さんをお持ちのご家族が知る機会をぜひ提供していただけたらと思う。
- 委員) 地域の生涯学習のリーダーに求められる地域課題をどのように捉えるか、地域住民との話し合いをしてからの育成が必要だと思う。
- 委員) 風樹文庫について、18歳成年の記念として岩波新書・ジュニア新書のプレゼントをしたということであるが、若者にマッチしているかという所で考えた場合、どうなのかと感じた。実績としてはどれくらいの申込みがあるのか。

事務局) 今年度対象者は 18 - 20 歳の約 1300 人となり、現状は約 130 人の申込みとなっている。来年は 18 歳の高校三年生が対象となり、高校の掲示板や保護者への周知など制度が定着すれば申込みも増えてくると考えている。

委員) ファーストブック、セカンドブックについて、ファーストブックが行き渡らないのが 5%未満に対して、セカンドブックは 30%以上のお子さんに行き渡っていないということを伺った。本が渡らないということは残念なことである。必ずお渡しできることを考えれば、今後、小学校入学時のサードブックを考えてみてもよいかと思う。例えば、ファーストを小学 1 年生、セカンドを中学 1 年生、18 歳の種まくブックという形もある。読書への取組や確実に本が渡るように今後も検討していただきたい。

委員) 電子図書館（デジとしょ信州）の利用が広まるように今後の周知をお願いしたい。

委員) 各種講座について、移住者の参加はどうか。

事務局) 現在のところ、移住者の方までフォローはできていないが、条例館ごとに講座の活動も広げ、各地域で学ぶことができる体制をとっている。

委員) 公民館講座を運営する者として、ふるさとを知る講座を開催した際に感想として諏訪がすばらしいというお声をいただいた。今後も地元諏訪を知る機会となる講座を積極的に開催したいと考えている。

委員) 諏訪を魅力的に感じている方がいるので、色々と発信してもらえたら諏訪市をより知れる機会となるのではないかと思います。

委員) 地域の生涯学習リーダーの育成として、意欲のある人が学ぶことで成長し、次の方に教えることで生涯学習リーダーが継続していけるのではないかと考える。

委員) 読書ボランティアの育成をしたくても人が集まらないと思う。読書ボランティア講習会は地域住民にとって敷居が高いように思う。地域公民館などの音読講座を開催してその中からボランティアにつながる人が出てきたらいいかなと思う。

委員) 未満児保育が増えてきており、乳幼児講座に参加する人たちは元々から色々と保育に関する情報を持っている方が多い印象を受ける。平日以外の土日で働く父母のために講座を行うということも検討していくことが必要ではないかと思う。

委員) 美術館ボランティアの登録者が約 20 名とあり、乳幼児学級と一緒に活動ができれば面白いのではないかと思う。ボランティアが続いていく成功例としては、ボランティアが生きがいにつながるといった話もある。そういった人材の育成と継続が大切だと感じる。

委員) 博物館もボランティア募集をしているが、ボランティアが皆高齢化で新規事業がしづらくなっている。だからといってこれまでの方を切り捨てるのではなく、若い人も交えて一緒にやっていく方法を検討していかなければいけないと感じる。

委員) 中央公民館、4 条例館といった生涯学習施設の課題や今後どうなっていくのかを次期計画で示してもらえたらと思う。行政だけでは限界があるため、民間の知恵も借りながらサービスの拡大を図っていただけたらと思う。

委員) 乳幼児講座は親たちだけでなく、祖父母にも参加いただけるような孫育ち講座があってもよいのではないと思う。

委員) 書道協会の展示を文化センターで行ったが、穴あきパネルが重くて設置が大変だった。高齢者でも簡単に展示ができる設備が導入されたらと感じる。

委員) 博物館・美術館と小中学校との連携はすばらしいことだと思う。直接関わると各施設に訪れたいと思うので、引き続き継続してほしい。

委員) 博物館の出前講座で公民館などを利用してできれば参加する人も増えるのではないかと思う。身近に感じられるようなものや地元住民が何を望んでいるか検討していただければと思う。伺いたいこととして収蔵物の保管場所はどうか。

事務局) 博物館・美術館・図書館とも収蔵スペースには課題があり、今年度収蔵物に関する全体像をつかんで、今後どのようにしていくかを検討していきたいと考えている。

委員) 寄贈した作品などが博物館や美術館でなかなか展示されないということを聞くので、ぜひデジタル化や IT 化をうまく活用してもらい、インターネット上で誰でも閲覧できるようなシステムの導入を検討いただけたらと思う。

委員) 学校施設の運営に支障のないようにしながら体育館や運動場の開放ができたと思う。空き教室の利用を他でやっているところもあるので、縦割りはやめて活用できるものを活用してほしい。

委員) 指導者の育成について、小学校クラブ活動や地域の方にも開放されれば子どもと地域が近くなるように感じる。東京オリンピックで新しい種目となったスケートボードも諏訪湖畔でやっているのをみかけるようになったが、あのような

スポーツは指導者の難しさを感じる。

(議事終了)

5. 事務連絡

社会教育委員関係事業予定について

6. 閉 会